

取組内容	2022 年度計画	2022 年度実施内容	自己評価
1 高大連携による県内高校からの進学推進 ①高校生等を対象に大学等の教職員が出前講座を実施 ②高校の「総合的な探究の時間」に大学等の教職員を派遣して 指導・助言を実施 ③大学等が共同で高校に出向いて進学説明会を実施 ④中・高校生等を対象に大学等の公開授業参観を実施 ⑤学生募集のための広報活動の実施 オープンキャンパスの共同広告、キャンパスガイドの作成・配布、プラットフォームホームページの作成	①出前講座の情報発信と実施 145 件 ②高校の「総合的な探究の時間」で大学等の教職員が指導・助言 ③合同進学説明会の実施 6 校 ④公開授業参観の実施 2 回 ⑤オープンキャンパスの共同広告、キャンパスガイド作成・配布、プラットフォームの新ホームページ作成	①出前講座を実施した。 96 件 ②県立高校 1 校に、5 大学 2 短大から教員を派遣した。 ③進学説明会を実施した。 3 校 高校の OB・OG の現役大学生が県内大学等の PR 役として参加した。 ④公開授業参観を 3 回（3 校、3 講座）で実施した。 ⑤県内高校 40 校にオープンキャンパス日程一覧を送付、教員の参加を要請した。キャンパスガイドを作成、県内高校 2 年生全員及び教室用として高校 43 校、中学校 71 校等へ送付し、校長会等で積極的な活用を依頼した。新ホームページは 3 月から公開を始めた。	・出前講座、総合的な探究の時間については、高校等への周知方法を検討するとともに、受講者（学校）へのアンケート調査によるニーズ把握等を通じて、改善に努めたい。 ・キャンパスガイドをデジタル化するなど、各取り組みの充実を通じて初等中等教育のさらなる支援を行うとともに、県内大学等への進学促進を図りたい。 【評価】 B
2 県内大学等在学生の地域理解・定着意欲喚起 ①単位互換科目として学生のニーズに合った科目を開設 ②地域理解、地域連携、キャリア形成に関する科目の情報共有 ③フィールドワークおよびアイデア創出ワークの実施 ④教職員研修として F D ・ S D 活動の共同開催 ⑤リスクマネジメントに関する研究会・協議会等の開催 ⑥各大学等の外国人学生の交流の場を設定	①単位互換科目の共同開設 730 講座 受講者数 10 人 ②地域理解等に関する科目の情報共有 ③フィールドワーク等の実施 ④ F D ・ S D 活動の共同開催 3 回 ⑤リスクマネジメントに関する研究会の開催 2 回 ⑥外国人学生の交流の実施	①単位互換科目を 469 講座開設した。 受講者数 16 人(延べ 18 人) ②4 月に情報共有を行った。 ③小豆島一帯においてフィールドワークおよびアイデア創出ワークを実施した。 (10/28～10/30) 参加学生 4 人 ④危機管理シンポジウムを F D ・ S D 活動の一環として、PF に情報共有した。 ⑤危機管理シンポジウムを開催した。(10/31、香川大学主催、PF 香川共催) 参加者数 232 人 ⑥香川大学グローバルカフェでイベントを実施した。	・学生の科目履修や共同活動は、地理的・時間的制約、学生の動機付けなどが課題である。 ・教職員の研修は、適切なニーズ把握、開催方法の検討が必要である。 ・県内大学等がさらに連携して、在学生の地域理解や定着意欲に繋がるよう努めることが大切である。 【評価】 B
3 卒業者の地域就職に向けたキャリア支援事業 ①就職支援を目的とした就職面接会及び個別面談会の開催 ②業種別の複数社によるオンラインでの企業説明会の開催 ③県内自治体等の担当者や O B ・ O G と県内大学生が一堂に集まる大懇談会の開催 ④就職活動の始め方や企業研究の方法を説明する研修会の開催 ⑤インターンシップを受け入れる県内企業の募集と参加学生の調整 ⑥県内自治体、官公庁、国立大学法人等の就職説明会の開催	①就職面接会及び個別面談会の開催 3 回 ②オンラインでの企業説明会の開催 3 回 ③大懇談会の開催 1 回 ④研修会の開催 1 回 ⑤企業の募集、参加学生の調整 1 回 ⑥就職説明会の開催 2 回	①6 月、8 月、3 月に開催 参加者数 (対面) 延 502 人 (オンライン) 延 98 人 ②8 月 2 回、9 月 1 回 参加者数 187 人 ③9 月に開催 参加者数 延 54 人 ④10 月に開催 参加者数 19 人 ⑤4 月に企業募集 5 社 インターンシップ参加者 0 名 ⑥2 月に 2 回開催 参加者数 (対面) 延 222 人 (オンライン) 延 610 人	・予定通りに開催できた取組みは、参加学生の満足度は非常に高かった。 ・参加学生の確保が一番の課題であり、各大学等での周知徹底及び実施内容の充実、改善に努めたい。 【評価】 B

【評価】

S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。

A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。

B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。

C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。

D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。